

平成13年度

生物多様性情報データベース構築 FS 報告書

報告日:2002年3月31日

提案課題名 東南アジア産アリ類データベース構築

機関所在地 〒890-8580

鹿児島市郡元一丁目21番24号

TEL. 099-285-7111 FAX. 099-285-7034

機関名 鹿児島大学

## 1. 構築検討したデータベースについて

<p><b>データベースの概要及び特徴</b></p>	<p>(FSを踏まえて、データベースの概要及び、データの特徴、検討したデータベースの特徴、他の類似のデータベースとの相違点等を簡単に記述して下さい。)</p> <p>東南アジア産アリ類の地域別検索・解説。対象地域はマレーシア、タイ、ベトナム。随時、対象地域を拡大。言語は基本的に英語とするが、必要に応じて現地語併記とする。当該地域に生息するアリの属すべてを網羅した属までの図解検索とし、解説には標本画像、生態など重要情報を掲載する。農地・果樹園などに出現する応用上重要なものについては種まで同定できるようにする。類似のデータベースは日本産アリ類については存在するが、東南アジア産については皆無である。また、本データベースはDIWPAのもとですでに活動を開始している国際ネットワーク(ANeT)加盟の研究者を軸として、現地のニーズを最大限取り入れたものとする。</p>
<p><b>類似のデータベース</b></p>	<p>(類似のデータベースが存在する場合に、国内・国外別に記述して下さい。特に提案書以降に判明したものを中心にお願いします)</p> <p>日本産アリ類カラー画像データベース、アリ類データベース 作成グループ、 Ants of the subfamily Pseudomyrmicinae. The Ward Ant Lab.(属の検索、一部種の検索)</p>
<p><b>生物分野</b></p>	<p>(対象となる生物分野を具体的にお書きください。)</p> <p>昆虫綱・膜翅(ハチ)目・アリ科 分類学・多様性生物学・生態学・生物地理学・保全生物学・インベントリー</p>

## 2. データ源およびデータの現在の状況について

(FSを踏まえて以下の項目について記述ください。)

<p><b>データ源</b></p>	<p>(検討した培養生物、カルチャ、標本、実験、ラベル、カード、文献などを区別して、データ源について具体的に記述して下さい。)</p> <p><b>1) H13年度データ取得可能なデータ源(件数など):</b></p> <p>アリ類標本: 鹿児島大学アリコレクション, 九州大学アリコレクション, 兵庫県立人と自然の博物館アリコレクション(13年度に利用した画像用標本数: 約100点)</p> <p>文献: 九州大学熱帯農学研究センター所蔵のアリ関連文献, 鹿児島大学理学部所蔵のアリ関連文献(約500篇)</p> <p><b>2) H14年度データ取得が可能なデータ源の見込み(件数など):</b></p> <p>アリ類標本: 上記コレクションに所蔵される約3万点の標本の他, カセサート大学アリ博物館, マレーシアサバ大学熱帯生物学保全学研究所, ベトナム生態学生物資源学研究所の標本約2万点が使用可能。</p> <p>文献: さらに不足している文献約500点を収集予定。</p>
--------------------	---

	<p>3) H15年度以降のデータ取得が可能なデータ源の見込み(件数など):</p> <p>アリ標本:平成14年度に新たに採集された標本(点数未定)</p> <p>文献:海外から取り寄せるなど約100篇を追加</p>
データの発生・収集場所	<p>(自機関での発生・収集、他機関での発生・収集かを区別し、具体的にデータ収集機関名と生物種および件数を記述して下さい。)</p> <p>アリ標本:上記研究機関に所蔵される(あるいは新たに収集される)約1500種が対象となる。</p> <p>文献:上述の研究機関に所蔵される(あるいは新たに収集される)約1100篇が対象となる。</p>
他機関の場合の連携協力について	<p>(データ収集、データ作成における他機関、学会等との協力実績、協力などについて記述して下さい。)</p> <p>英国などヨーロッパの博物館、米国ハーバード大学との連携は良好であり、タイプ標本の借り出しに問題はない。</p> <p>アジアのアリ研究者ネットワークであるANeTは参加研究機関の所蔵標本にかんして全面協力を約束している。</p>
データフォーマット	<p>(検討した文字、数値、図形・画像、音声、マルチメディア、その他の区別をして、データ項目、項目の内容、データ様式などについて記述下さい。)</p> <p>文字データ:用語集、属検索、文献目録、種リスト</p> <p>画像データ:アリ科全般の属代表種;ボルネオ産オオズアリ属全種のタイプ標本を中心とした画像</p>
デジタル化されたデータについて	<p>(データ源からデジタル化されたデータについて記述下さい。)</p> <p>1) 現在保有するデータ総件数と保存媒体(H13年度末見込み)</p> <p>種リスト:550件(パソコンハードディスク)</p> <p>オオズアリ画像:150件(パソコンハードディスク)</p> <p>2) 平成14年度の見込み</p> <p>用語集:30件</p> <p>図解検索:150件</p> <p>画像:500件(累積)</p> <p>種リスト:1200件(累積)</p> <p>3) 平成15年度以降の見込み</p> <p>用語集:100件(累積)</p> <p>図解検索:300件(累積)</p> <p>画像:1000件(累積)</p> <p>種リスト:1500件(累積)</p>

<p><b>データ・ベースの実現方式とデータのクオリティ</b></p>	<p>(検討したデータの信頼性・普遍性等についてのチェック体制について記述してください。)</p> <p>まだ十分に整備されていない。今後、所蔵標本とタイプ標本との照合、Bolton (1995) のリストとの照合、文献リストと原著論文の照合を通じて性格を期す。</p>
--------------------------------------	---

### 3. FS で得たデータベース化する際の知見について

<p><b>データ・フォーマットやデータの加工内容などについて</b></p>	<p>(検討したデータの変換、標準化、分割、索引づけ、等技術的に特記することがあれば記述して下さい。)</p> <p>十分な検討は行っていない。</p>
---	--

### 4. その他

<p><b>データベースを公開する上での問題点の解決について</b></p>	<p>(提案書で問題提起した事項に対して解決した内容。)</p> <p>重要な部分については、あらかじめ出版物として公開することを第3回 ANeT ワークショップで確認した。</p>
<p><b>その他</b></p>	<p>(FS の成果により、本報告でアピールしたいことなどを記述して下さい。)</p> <p>申請書で提案した「東南アジア産アリ類の属の図解検索」はアドバイザー委員やデータベース専門家により、充分実現可能であることが確認された。</p> <p>さらに、国内外の最新の動向を考慮し、ボルネオ、タイ、ベトナム産アリ類の種リスト、文献リストを作成することを決めた。また、英語-現地語のケイタイ用語集を作成することにした。</p> <p>ボルネオ産オオズアリをモデルにして、「Nomenclator」を使った分類データベースを試作する。</p>

5. 確立できた推進体制（具体的な参加メンバーをリストアップしてください）

<b>開発責任者</b>	<p>（氏名、所属、役職を記入）</p> <p>山根正気・鹿児島大学理学部・教授</p>
<b>研究協力者</b>	<p>（氏名、所属、役職を記入）</p> <p>緒方一夫・九州大学熱帯農学研究センター・助教授</p> <p>橋本佳明・姫路工業大学自然環境科学研究所・助教授（平成14年度は1年間 JICA 専門家としてマレーシア国サバ州コタキナバル市のマレーシアサバ大学熱帯生物学保全学研究所に滞在）</p>

## 6. FS 後の推進スケジュール（案）

（今後のスケジュール案と平成14年度見込みについて記述して下さい。）

（例）

	H 14	H 15	H 16	H 17
1.データベース基本設計	■			
2.データベース詳細設計		■		
3.情報機器の導入		■	■	■
4.データベースプログラミング			■	
5.データ作成・入力	■	■	■	■
6.運用試験				■
7.試験公開				■
8.公開				■